

フィンランドトウルク応用科学大学 (TUAS)
交換留学報告書

電子情報システム工学専攻 2年 竹内純基

留学スケジュール

ここでは、留学のスケジュールについて記述する。私は、本留学において8月28日(水曜日)から11月27日(月曜日)までの計92日間(うち移動2日間)をフィンランドのトゥルク氏で活動した。本留学での大まかなスケジュールを記載する。

表 1: 留学のスケジュール一覧

日付	行動	備考
8/28(火)	釧路空港を出発, 成田へ移動	JL1148 便 20:15 発
〃	東京日暮里のホテルラングウッドに宿泊	宿泊料 8000 円 物件良好
8/29(水)	東京成田国際空港に移動, Helsinki 便に搭乗	FINNAIR AY74 便 11:00 発
〃	Helsinki 空港到着, Turku へ移動しホテルへ	バス運賃 30.50€
8/30(木)	大学で初日オリエンテーション, 午後から市内探索	
8/31(金)	全体オリエンテーション, CityRace に参加	景品あり
9/1(土)	市内散策	食料品店や外食店など
9/3(月)	学内オリエンテーション, 学生アパートへ移動	パスポートでやり取り
9/4(火)	研究発表, 個人研究の設定	
9/5(水)	授業登録 (フィンランド語, 英語, CCNA)	授業を 3 つ登録
9/6(木)	授業開始 (CCNA)	毎週木曜に実験可能
9/10(月)	Get Finternational のオリエンテーション	フィンランド文化
9/11(火)	English のオリエンテーション	英語
9/13(木)	Finnish evening に参加	市内案内と歓迎会
9/14(金)	English	週 2 回
9/17(月)	Finnish for Exchange Students のオリエンテーション	フィンランド語
⋮	毎週月, 火, 木, 金に授業	

学習内容

今回の留学では、主に 3 つの授業に参加した。

10/15(月)	Rovaniemi へ向けて列車で出発	列車運賃往復 96€
10/16(火)	Rovaniemi 到着, 散策とショッピング	
10/17(水)	Santa Village へ行き, サンタと会う	写真料 20~50€
10/18(木)	科学館見学, 散策	
10/19(金)	Turku へ戻る	
∴	毎週月, 火, 木, 金に授業	
11/26(月)	Turku から移動 Helsinki 空港から日本へ	FINNAIR AY73 便 17:20 発
11/27(火)	東京成田国際空港到着	
11/29(木)	羽田発釧路行の便へ搭乗 帰省	ANA743 便 15:30 発

1つ目の講義は、フィンランド語である。フィンランド語は、フィンランドの公用語(95%)となっており、日常会話や街の案内、標識などほぼ全てに使用されている言語である。授業は英語で行われ、簡単な挨拶から始まり、自己紹介、数字、食べ物、飲み物、買い物の仕方、時間の読み方など、基礎的なことを教わった。授業では、様々な地域からトゥルクに来ている他の留学生と例文で会話しあうことや、フィンランド地域についてフィンランド語を交えた英語プレゼンテーションの発表など、フィンランド語に関連する講義を行った。フィンランド語は、普段英語で使用されるアルファベット 26 文字に 3 文字を加えた 29 文字で構成され、母音は 8 つ存在する。子音の発音が英語と若干異なり、おもしろい発音に聞こえて新鮮であった。フィンランド語の名詞や形容詞は格変化し、名詞や形容詞に助詞がくっつく形で変化する。この変化が難しく、理解するのが困難であった。しかし、一緒に講義を受ける他の学生たちもフィンランド語は初心者という人が多く、終始楽しいムードで学習することができた。

2つ目の講義は英語である。英語の講義では、個人個人の自己紹介を行った後、英語の基礎力を測る試験を受け、その後、語彙や文法、英語によるプレゼンテーションについて学んだ。英語の講義では、学生同士がある問題について 3 人から 4 人でグループ討議を行ったり、実際にプレゼンテーションを行って意見を交換したりした。この講義では、受けの姿勢ではなく積極的に会話に参加することが求められており、より積極的に英語を学ぶことができる環境作りがなされている。

3つ目は講義は、CCNA である。CCNA は基本的に実習を自分で行うことと、テキストを読んで自習する形式で行われた。テキストを読んで内容を理解し、それについてオンラインで学習、時間があれば実験室で実際に器材を使って接続を行うなど、整った設備を利用して

学習を進めることができた。

また、個人的なプロジェクトとして釧路高専で行っていた研究をそのまま引き続き行っていた。プロジェクトは基本的に時間が組まれておらず、空いた時間を使って図書館やホール、自室などで自習をしていた。

学習結果

学習面では、積極的に英語を使いつつ講義を受けることにより英語の聞く能力、話す能力が若干ながら向上できたと実感する。今までは、日本語を英語に置き換えて話をするということが普通だったが、英語で物事を考える様になってから、聞くことも話すこともスムーズに行うことができるようになったと感じた。

また、勉強によって学ぶこともあったが現地の人々との交流によって得たこともとても大きかった。一番ショックを受けたことは、学生ひとりひとりがとても個性的で自分自身で何をしたいかが明確であり、目的をもって行動しているということが見受けられた点である。日本では、何をするにも決まりがありそれに従って行動することが多い。自分で何かを決定して行動をするということが普段の生活のなかであまり存在しない。そのような生活に慣れていたせいもあり、最初に学校に行って何をすればよいかということがわからなかった。授業を受けることも自由な時間に何を勉強するかもすべて自由であり、何かを参考にできるといってもほぼない。やりたいことはすべて自分で決定し、自分で行動を起こす一見普通のように見えますが、日本ではあまり見受けられないことである。この点について、様々な講義や交流を通して学ぶことができたことがとても大きな学習結果だと感じる。

学習のために準備したこと

学習を円滑に進めるために英語を事前に学習した。当たり前のことだが、トウルク応用科学技術大学の講義では、全て英語でやり取りがなされる。講義の内容を理解することや講義について意見を述べる時などの会話を全て英語でやり取りする必要がある。彼らが何を話しているのかがわからないとまず講義の受けようがないため、リスニングを重点的に英語の勉強を行った。実際に参加した初級者向けの英語の講義では、一般的なリスニングと変わらない速度で様々なことが話され、最初は理解しきれなかったが、事前にリスニングで英語を聞く準備をしておいたので中盤からは何を言っているのかが大体わかるようになり、準備が活きたことを実感した。

フィンランド語に関しては、学校の Web サイトで教材が pdf ファイルとして配布され、それを予習し、講義を受けるという形で講義が行われた。フィンランド語は見ても聞いてもわからないという状況が多々あったため、単語の意味を和訳しておくことや、発音アプリを利用して、どのような音で発音されるのかということ事前に準備した。しかし、実際に講義を受けると先生が直接ペラペラと話すフィンランド語がまったく聞き取れず、苦戦する結果となったが、テキストの意味を理解しやすくなるという点で、予習は大事だと改めて実感した。

交流と生活

生活は、基本的に 3 人相部屋の学生アパートでの生活だった。キッチンとリビングが共用スペースとしてあり、寝室が 3 つある部屋で生活していた。同室の人は、アパートでの生活の仕方や、おすすめの買い物する場所、行った方がいい場所など様々なことを教えてくれた。最初は戸惑うことも多かったが、英語が正しく伝わってないときに何度でも聞き直してくれて、しっかり意思を伝えることができ、とても感謝した。学校での交流は、授業で知り合った他の留学生や、学校の食堂で会った学生、行きつけにしていたケバブ屋のマスターなどいろいろな人と交流した。英語の講義で討論があったときに、自己主張が激しく結構大変だったが、このくらいの意思の強さがなければ国際社会では発言できないのかとも思えた。ほとんどの人が英語で会話できたが、たまにフィンランド語しか話せない人がいたときは完全にお手上げで、スマートフォンや辞書をフル活用する結果となってしまう、あまり深く交流することができなかったのが残念である。

留学、学習、国際理解への意欲に関する変化

失敗を恐れて何もできないということが少なくなったように感じる。もちろん社会に出て失敗はしてはいけないことだが、何事も挑戦することが重要だと感じ、積極的に物事に挑戦する意欲が大事である。そのことに気がつくことができたことが自分の中では大きい変化だと感じる。

また、これまで課題や試験のためだけの勉強というものを続けてきたが、今は自分が学びたいことに対して積極的に調査し、知識を持ちたいという意識を感じる。自分のやりたい研究について自分で調査し、学ぶということは社会に出てからも通用する自分の力になるものだと実感している。

黙って上司や先生の言うことに従っていけばよかったという世界から脱却し 自分の考えに自信をもって行動できるようになるということがとても自分の力になるのだと実感した。この留学では、語学や勉強よりもそういう意識の部分がとても成長できたのではないかと感じます。

留学参加後の次の海外留学への関心

現在は日本でやりたいことがあるため、すぐに次の海外留学をということは考えてないが、大学院にいる間にまた海外へ行きたい。今回の留学参加によって、様々な地域の学生との交流を経験したことで、先入観や思い込みといった壁がなくなり、より素直に世界を見ることができるようになったと思っている。次に海外留学を行うとすると英語圏の中心であるアメリカやカナダを志望し、より英語の理解を深めつつ、現地の人々との交流を図りたい。

感想

今回のフィンランド留学では新しい発見がたくさんあり、とても有意義な時間をすごすことができた。最初は英語をあまり上手く話すことができず、コミュニケーションの壁を感じ、苦勞することも多々あった。しかし、何事も挑戦あるのみと実感してから、小さな失敗を気にしなくてもよいことだと考えるようになり、積極的に交流を行うことができとてもよい経験となった。またこのような海外に行ける機会があったら是非とも参加してみたい。もちろん苦勞もあるだろうが、それ以上に得るものが多く自分自身の成長へと繋がっていくのだと感じている。